

2019年第3回定例会 2018年度調布市一般会計決算反対討論

生活者ネットワークは、議案第57号平成30年度調布市一般会計歳入歳出決算に対して反対の立場から討論いたします。

ラグビーワールドカップがいよいよ開幕を迎え、気運が高まるのとともに、来年の東京2020大会の現実味も増したように感じます。そのような世界的イベントが行われているさなかにも、調布市内では市民の日々の営みがあり、その中で支援を必要としている市民も多くいることを忘れてはならないと思います。しかしまた、貧困地域や被災地の子どもたちの支援に力を入れるラグビーワールドカップや、平和の祭典である東京2020大会は、私たちが改めて世界の平和に思いを馳せ、調布市民一人一人の人権を尊重し、生活を向上させるための施策が、世界平和や地球環境の改善に繋がっているという意識を強めることができる、またとない機会となることも真実だと思います。

平成30年度の決算については、特に福祉におけるきめ細やかな取組みに進展が見られ、パラリンピックのレガシーにも希望を感じております。具体的には、平成30年度の新規事業である、看護師のコーディネータを配置した障害児（者）医療的ケア体制支援事業、重症心身障害児（者）在宅レスパイト事業、また先日一般質問でも取り上げました、（仮称）富士見町学童クラブの整備事業です。また、教育においてもここあの学習支援の取組みの周知が進んでいるようですし、太陽の子の整備完了も待たれるところです。子ども、若者の現在の暮らしや学びをしっかりと保障することが、調布の明るい未来に繋がります。そのためには、家族への支援も欠かせません。今後もより一層、社会の弱者の視点に立った取組みの充実を期待しております。

さて、生活者ネットワークは、平成30年度予算に反対をいたしました時、**駅前広場の地下駐輪場建設**を理由の一つとして挙げておりました。もちろん、駐輪場が必要ないと言っているわけではなく、駅前で行ったシール投票の結果などを踏まえ、別の選択肢として機械式の駐輪施設を提案しておりました。今回、都市計画変更したものを覆しての計画中止ということでしたが、利便性や安全性の点でも、環境への配慮という点でも、また今後市が負担していく維持管理費などを考えましても、英断であったと高く評価をしております。

しかし、予算に反対するもう一つの大きな理由として、**市民の声をしっかりと聞いていないこと、情報提供、説明が市民目線で見たときに不十分であった**、ということも挙げておりました。そしてこの点に関して、残念ながら今回、非常に重要な部分で改善が見られませんでした。今後まだ駅前整備もグリーンホールの建て替えもありますし、調布の街づくりはずっと継続していくものですので、市民参加による街づくり、市民との信頼関係構築を今後も進めていく上でぜひ重く受け止めていただきたいと思います。その一点を理由に決算に反対することといたしました。

具体的な反対理由は、**駅前広場の占用許可申請の手続き**にかかわることです。先日の建設委員会の中での答弁によりますと、おとし H29 年 12 月、街路事業としての補助金を受けて工事を行う広場に関しては、きちんと市で道路認定をしなければならないとする国の方針が示され、昨年 H30 年 3 月に正式に国からの通知があったとのことでした。これは、それまでの市の意向、つまり、駅前広場の道路認定はすべての工事完了時まで先延ばしにし、それまでは従来通りの簡易な手続きで市民がイベントに使える広場とする、という意向を阻むものだったということです。しかし、補助金を受ける以上は国からの通知には従わざるを得ないということで、昨年 9 月 25 日、これは昨年の第三回定例会閉会日当日ですが、本会議での議決を受けて道路認定がされましたので、こちらの**【道路空間（調布駅前広場）を多目的に活用するためのガイドライン（案）】**も当日に公表をしたということです。手続きが変更になる予定である旨は、9 月 20 日、議会閉会日の 5 日前発行の市報に掲載をされていました。

ここまでは、前回の決算議会に関わる内容です。

今回の私の決算への反対理由は、自由度の高い駅前広場を目指すというそれまでの市の説明を信じていた市民に対して、こういった突然の変更についての説明が不十分というより、ほぼ皆無だったこと、また変更後の手続きについての説明も市民目線で見た時に不親切であり、分かりづらいことです。

道路認定に伴い、産業振興課を窓口として行われていた申請手続きは、窓口が道路管理課と警察の 2 本立てになり、煩雑になりました。道路使用料もかかります。しかし、市民は窓口に来て初めてそのことがわかるという状態でこの 1 年間運用されてきたようです。また、申込者が使用する「許可条件」や許可申請書は、道路工事をおこなう業者が使っているものをそのまま踏襲していることから、「工事期間」や「工事実施の方法」など不要な記入欄がいくつも含まれるもので、文言も市民にとってなじみのあるものではありません。禁止事項も列挙されていることから、市民には厳格な印象を与えるものとなっています。

道路認定されるまでは、市の共催や後援を得るという一定のハードルはあるものの、市民の多様な活動を応援する市の姿勢が感じられるものであったのが、一転して市が警察とともに活動を管理し、制限をかける印象を与える内容となっています。

市は、街路事業を選択したとは言え、自由度の高い広場を目指していることは、たびたび答弁でも触れてきています。しかし、このガイドラインや手続き書類では、その意図は市民に伝わりません。

調布駅前広場整備や地下駐輪場計画については、これまでも市民に情報を公開し、市民の声を聞く場面を作ったにもかかわらず、計画の実行ありきで、やり方や中身を吟味しないまま手続きを進めてきたという経緯があり、そのことが市民の大きな不信感を生むこ

とになりました。法的に瑕疵があるかどうかだけを問題とするのではなく、**市民が納得するプロセスを一つ一つ積み重ねることこそが、市民のための街づくりには重要である**という認識は、多くの痛みを伴いながら、庁内でも共有されてきたのではないのでしょうか。市は、市民の財産である駅前広場を道路にするという選択をしたことへの責任の大きさを理解しているのだろうか？という疑問すら感じています。

あの駅前広場の空間に調布ならではの賑わいを創出するには、あの場所は、市民が交流し、生き生きと時間を過ごせる調布ならではの駅前広場でなければならないし、これからもずっとそうあり続けなければなりません。そうでなければ、あれだけの広い空間を確保した意味がありません。この1年間で行われたイベントが150ほどと聞いています。**市民が求めているのは、市がお墨付きを与えたイベントだけが行われ、残りの200日はただの大きな交通結節点にしかない広い道路区域ではない**はずです。日々、大小多様な市民の活動が行われることで、本当の意味で中心市街地の活性化が実現し、市民の多様な営みが調布駅前広場独自の景観を作っていくのではないのでしょうか。

この夏、酷暑の中広場で開催されたオープンハウスや、24日に始まる市民検討会、またその中で市民公募枠を設けたことなど、高く評価しております。

しかし、駅前広場に関して市民にとっては重要な問題の一つである使いやすさという点、そのために求められる丁寧な説明という点で、市民感覚からの乖離が見られました。このことは、これまでも長く市民参加の重要性を訴え、分かりやすい情報提供、プロセスの透明化を求めてきた生活者ネットワークとしては見過ごすことはできません。産業振興課とも連携しつつ、また他の自治体の手法も参考にしながら、今後、市民の信頼を得られる情報公開のあり方、伝え方について、さらに努力を続けていただきたいと思っております。市民が使うのですから、分からないことは市民に聞き、また市民がわかるまで説明する、情報を伝える、これが基本だと思います。

色々とお申し上げしましたが、以上、一点の理由から、生活者ネットワークは平成30年度調布市一般会計歳入歳出決算に対して反対をいたします。